

デザインの力で 社会をやさしく

子どもを生み、育てやすい社会づくりに向けて

少子高齢化が進むなか、年齢にかかわらず
生き生きと暮らせる社会づくりが求められている。
ちよとしたデザインで社会の抱える問題を気づかせ、一人一人の
行動を変えるうねりにしたいと語るデザイナーの活動を追った。

加藤熊三 写真 Photo by Kumatsumi Kenji



駄菓子屋さんって
いろんな人と
お話できて楽しいね



上/むすび堂は、カフェ「EN-cafe」と児童クラブと同じ敷地に建つ。現在はコロナ禍で風通しのよい、以前の飲食スペースに移動。ひととき目をひく日除け幕は今年4月に設置されたもの。下/むすび堂で使える地域通貨。むすび堂に隣接する、こどもむら児童クラブ「en-college」などで活用されている

「一週間がんばった褒美に駄菓子を買ってもらえるんだ」

埼玉県久喜市(旧・栗橋町)にある駄菓子店「むすび堂」に幼稚園からの帰りに母親と共に立ち寄った田島理子ちゃん(6)と大陸君(3)の元気を声が響く。その様子をほほえましく見ながら、母親と店のスタッフが談笑する。

「おもに利用するのは、栗橋駅西口周辺に点在する学校法人柿沼学園のこども園や保育所、学童などに通う子どもたち。利用者が多い金曜日だと一〇〇人くら

いの子どもが来ます。小学校に上がった卒業生たちの成長を見るのも楽しみです」

と、話すのは柿沼学園の狩野紀美子さん。運営は、柿沼学園の職員がボランティアで行っている。狩野さんもスタッフの一人だ。二〇一七年七月に開店し、子どもの居場所や親の交流の場になったり、近隣の高校生が部活帰りに利用したりと、地域の人々を結びつける場となったむすび堂。その名づけ親は、グラフィックデザイナーの豊田秀夫さんだ。「クライアントの柿沼学園から、駄菓子屋を子どもの居場所や人と人を結びつける場にしたという思いを受け、ネーミングし、ロゴデザインもしました」

むすび堂のロゴは、人と人が手をつないでいるようなデザイン。豊田さんは、デザインの力で、子どもから高齢者までみんなが生き生きと暮らせる社会づくりを支えたいという思いから、長年携わってきたグラフィックデザインの仕事の延長として始めた。本格的に取り組むため、一九年四月に㈱JBBを創設した。その社名は「Jiji Baaba Baby(じいじ、ばあば、ベイビー)」の頭文字から取ったものだ。

みんなにやさしい社会をめざして

豊田さんは、旧・栗橋町の出身だ。中学校の二学年上の先輩で、これまでも懇



1 酒粕石鹸の原料の酒粕は、栃木県塩谷町の小島酒造店のもを使用。 2 規格外でも見方を変えれば、「かわいく見える」と、名づけた「かわいい野菜」。このブランド名で規格外の野菜を販売する。 3 発酵もみから堆肥は、群馬県高崎市内の小中学校などから回収した残渣をNTT東日本・関信越が自社施設で堆肥化したもの。黒板をイメージしてデザインした。 4 おむすびおてたまは、柿沼学園が運営する「マタニティハウスにじいろのおうち」を利用する妊婦などによってもらうことを想定して企画(写真提供/豊田秀夫さん)



「まだまだ、これからですけど、デザインで、やさしい社会をつくっていくことはもちろん、デザインで社会が抱える問題に気づいてもらい、一人一人の行動を変えらうねりにしていければと考えています」



ロゴをデザインした柿沼学園ことむら駅前保育園の国舎を前にした豊田さん。国舎の壁には大きなロゴが入る

と、話す豊田さん。デザインするうえで、クライアントとしっかりコミュニケーションを取り、その思いを前面に出すことをモットーとしている。

豊田さんは、SDGs(持続可能な開発目標)が掲げる「誰一人取り残さない」世界の実現も意識し、資源の有効利用を促し、その啓発を進める商品のデザインにも取り組んでいる。

「まだまだ、これからですけど、デザインで、やさしい社会をつくっていくことはもちろん、デザインで社会が抱える問題に気づいてもらい、一人一人の行動を変えらうねりにしていければと考えています」

意にしていた柿沼学園理事長の柿沼平太郎さんから幼稚園のロゴデザインの仕事を受けたことをきっかけに子どもを生み育てやすい社会づくりを意識したデザインに取り組むようになった。その後、自身に子どもができたことは、この仕事を本格化させることにつながった。

「柿沼さんの影響もあり、子どもを生みやすい、育てやすい社会は、子どもの有無や年齢に関係なく、みんなにとつてよい社会だと考えています。その考えに共感してもらえる企業から協力を得ながら、社会の課題の解決を進めていきたい」

柿沼学園が関わる施設のロゴデザインは、豊田さんが手がけたものだ。クライアントである柿沼さんは、ロゴについてこう評価する。

「職員からはとても好評です。ロゴに帰属意識を高める効果もあるのではないのでしょうか。また、利用する人々にわたしたちの考えを伝えるときにも有効です。豊田さんは刺激を与えてくれます。これからもデザインでまちづくりを支えてもらいたいですね」

栗橋駅西口周辺は、若い子育て世代の流入が続いているという。○一年に柿沼さんが理事長に就任した時点では、幼稚園だけだった事業を、子どもを生み育てやすいまちづくりと並行して拡大させたことが要因の一つだ。その取り組みは、保育や地域づくりの優良事例として、国からも高く評価されている。